

一 法華經極理の事

仰せに云はく、迹門には二乗作仏、本門には久遠実成、此をさして極理と云ふなり。但し是も未だ極理にたらず。迹門にして極理の文は「諸仏智慧、甚深無量」の文是なり。其の故は此の文を受けて文句の三に云はく「^{たて}豎に如理の底に徹し、^{きわ}横に法界の辺を窮む」と釈せり。さて本門の極理と云ふは「如来秘密、神通之力」の文是なり。所詮日蓮が意の云はく、法華經の極理とは南無妙法蓮華經是なり。一切の功德法門、釈尊の因行果徳の二法、三世十方の諸仏の^{しゆいんかん か}修因感果、法華經の文々句々の功德を取り^{あつ}聚めて此の南無妙法蓮華經と成し玉へり。^{ここ}爰を以て釈に云はく「総じて一經を結するに唯四のみ。其の^{すうへい}枢柄を^と撰って之を授与す」と。上行菩薩に授与し玉ふ題目の外に法華經の極理は^{これ}之無きなり云云。